

私のケースメソッド記録など

—— ちから教授の授業十適，高速出欠チェック法とは？ ——

加 藤 主 税*

1. 大学教育の問題点

はじめに，大学教育の問題点を簡潔に述べることにしよう。小学校，中学校，高等学校における各教科には専門的な教授法が存在する。教員を目指す者にとっての必須科目であり，もちろん教育現場では最も実践的な科目である。各科目の教授法と教育実習を通して，教員への道に進む。

しかし，大学には大学の科目として，大学生対象の教授法は存在しない。しかも教育実習も文部科学省が定めるような教職科目も，指導要項も，検定教科書も存在しない。もちろん教職免許もない。大学教育においては，教育実習もしたことがなく，教授法も勉強したことがない，いわば，教育に関してはまったくの素人が，ただ自分の専門領域の知識だけで多数の大学生の前で，授業，講義，演習を行うのである。いわば無免許運転をしているようなものであろうか。しかも大学教員の教育に対する意欲は，小，中，高の教員より高いことは理論的にはあり得ない。というのは，大学教員は研究者を目指してきた者ばかりであり，教育を目指して大学教員になることは基本的にはあり得ないからである。

もっと致命的なことには，教育より研究業績の方が大学教員として，より評価が高いのである。教育面を犠牲にして，研究面に力を注ぐ方が大学教員として賢い生き方かもしれない。小学校，中学校，高等学校の教員は，義務的であるが，研究授業を頻繁に行い，教授法に関して自己研鑽している。そこで私はある教育学会で，大学の教員も教案を作成して，研究授業を行い，自己の授業をみんなに見てもらい，授業技術の向上をするよう，提案したが，反対勢力は思いのほか強く，断念した経験がある。今でも是非実現したいと思っている。

2. バラ色の大学教育

文科省の定める，検定教科書，指導要項やさらに上級学校への受験などのしほりもない自由溢れる大学教育はある意味バラ色である。学生にとっていかに楽しく，低負担で，高効率な方法で，将来にかけて役立つ知識，考え方，方法論などを身につけさせることを，かなり自由に考え，編み出すことができるのである。教授法の素人が学生に教授することはネガティブに考えれば，恐いこと，嫌なこと，やりたくないことであるが，ポジティブに考えれば，前代未聞なことに挑戦することであるので，やりがいのあることである。

私は小学校，中学校，高等学校における英語教授法を自分の専門分野に含めてきた。その延

*人間関係学科 教授

長として大学における英語教育、つまり教授法を開拓してきた。ただこの大学英語教授法は大学の科目としては存在しない。大学院での大学英語教員養成は他の専門領域と同様に、まったくなされていないからである。あくまで、専門領域の業績の向上が大学英語教員養成と同一と考えられているからである。

3. ちから教授の授業十適

大学における教授法の原則として、次の「授業十適」を紹介しよう。私が担当するすべての科目の原則である。以下の「授業」は「講義、演習」などを含める。

3.1 適切な授業目標設定

大学には小、中、高とは異なり、文部科学省によって定められた、指導要項は存在しない。まったく、担当教員に任されている状況である。本学部学生に適合した目標を設定する。学生の反応によっては、学期途中であっても、修正しなければならない。さらに、この目標をシラバスに記すだけでなく、講義中十分に学生に周知させることも重要である。この際、授業マニフェスト、授業インフォームドコンセントの周知徹底が重要である。学力差の大きいクラスでは、学生個人個人の能力に合わせた、目標設定をも含む。「落ちこぼれ」学生、「ふきこぼれ」学生に対する適切な指導を工夫し徹底する。無用な劣等感、優越感より、自信をつけさせることが肝要である。

3.2 適切な教科書選定

大学は、小、中、高とは異なり、文部科学省検定教科書はなく、担当教員に任されている。自由ということはその責任をも伴う。質、量、内容、あるいは価格、体裁が本学部の学生や授業目標に適合している教科書を選ばなければならない。内容が本学部の学問領域に含まれるものに限定するという意味ではない。文学（語学）指向の内容であっても、それを本学部の学問領域に関係するような指導方法を工夫することである。既製のテキストではすべての条件に適合するものはめったにない。質、内容がちょうど良いのに、量や、価格が合わないとかである。3000円以上もする教科書を選定し、1/3程度しか消化できないような教科書選定は行うべきでない。もっとも良い方法は自分で作成することである。私の場合はすべて自作のテキストを使用しており、既製のものを使用したことはない。

3.3 適切な学習指導

ノートの取り方、辞書の使い方、レポートの書き方、発表のしかた、予習・復習のしかたなどの指導を含む。辞書の使い方に関して、「ふきこぼれ」学生に、辞書で意味を確認する指導している。ノートの取り方に関して、学生が書きやすいように、板書計画を考慮する。工夫された板書計画は単なる口頭説明より効果が大きいものである。私の場合はマルチ商法の研修会や、黒板を使って漫談する芸人や、名物予備校講師の板書の使い方などを密かに研究している。

3.4 適切な授業展開

授業理解を深めるための視聴覚資料・教材、プリント、課題、小テスト、レポートなどを含む。特に1年次学生は90分の授業に慣れていないので、授業展開は休憩を挿んで、2サイクル制を採用したら効果があるかもしれない。ちなみに、1サイクルとは、前時の復習・定着確認、

本時の導入、展開、まとめ、定着確認、課題提出、次回予告である。

3.5 適切な学生把握

学生の興味関心、当該科目に対する考え方、さらには出欠状況、受講態度、授業内容の理解度などの把握を意味する。学生の反応をまったく無視して、授業を進め続けてはならない。私は学生の「ホー！」という納得理解の反応の声があがるのを、1時限の授業中に1回は聞くことを、目標としている。

なお本学部の学生の理解能力には相当の差がある。ふきこぼれ、落ちこぼれの把握、指導や私語、いねむりなどの防止計画を含む。授業マニフェスト、授業インフォームドコンセントの周知徹底により、私語、いねむりなどの防止は効率よく成功する。また、机間指導の実践も学生把握には効果的である。大多数の講義科目でも板書計画と併用すれば、十分可能だ。つまり黒板に多くのことを速めに書き、それを学生が書き留めている間に、後部座席の方への机間指導を行うのである。

3.6 適切な授業技術

声の大きさ、話す速さ、発音（英語、日本語）、板書文字の大きさ、見やすさなどを含む。さらに各種の計画（板書計画、机間指導計画、発問計画、指名計画、学生発言計画、視聴覚機器使用計画など）、さらに英語科目の場合は英語ゲーム、野外英語実習、ロールプレイ、英語劇、洋画観賞、英米人留学生との交流会などを含む。声の大きさ、話す速さ、板書文字の大きさ、見やすさなどは学生からの事情聴取も必要であろう。

3.7 適切な試験出題

授業目標、授業内容に適合する、種類、量、質、さらには試験前指導（試験勉強のしかた指導）、あるいは口答試験・筆記試験実施計画などを含む。出席時における学生の授業の取り組み方、努力などが評価できるような試験を工夫することが重要だ。授業を聞いていなくても、他ごと考えていても、評価に差がないような試験は適切でない。頑張った学生、努力した学生が報いられるような試験出題を理想とする。

3.8 適切な評価基準

評価基準についての学生への周知は勉学意欲を高める。期末試験の成績だけでなく、出席状況、授業態度、積極性、小テストなどを含めた総合的評価を目指す。出欠状況につて、1期に2、3回、学生全員の出欠状況を学生に提示する。自分ばかりでなく、全員の出欠状況を知ること、出席意欲を高めることになるし、成績評価の目安をもつることができる。さらにその結果により、賞賛、激励、忠告、警告し、学生の学習意欲を高めることができる。

学生個人個人の既に持っている、理解能力より、授業後獲得した理解能力を評価する。授業インフォームドコンセントの周知徹底により、受講態度、積極性、努力度、理解度などを適切に把握し、これらが欠けている学生、充足している学生を適切に評価できるような不公平感のない評価基準を構築する。真摯な学生を失望させるような評価は、絶対に避けなければならない。

3.9 適切な環境設定

席順計画、授業空間、空調、設備、マイク・ビデオ音量などに対する配慮を含む。空調に関しては、特に冬の1時限目の授業などで、空調をつけずに教員を待っていることがあるが、学生が空調を操作してもいいということを周知させる方がよいと思う。私語に関して、教員は、適切な環境設定を学生のために守るのが責務であることを、私は断固として、心している。私語予防として、1. 粘り強い注意、2. 頻繁な机間指導、3. 授業妨害の罪意識の認識、4. 他の受講生の受講権利を奪うことの意味確認、5. 指定席、6. 授業後の個人指導、7. 退出命令、などがある。5. 指定席については、前席で受講したい学生を尊重するという配慮をしなければならない。

3.10 適切な授業中、授業外指導

授業に対する学生の反応をつねに把握し、毎回の授業に反映させることが肝要だ。そのため学生の授業中、授業外の質問、意見を大いに歓迎する姿勢を持つことが重要である。授業外に質問、意見をjする学生は貴重だ。彼らの為jに、私は時間がある限り、学生が研究室を訪れることを厭わないようにしている。

4. 英語科目について

本学部の英語科目は40科目（20コマ）（オーラルイングリッシュを含まない）であるが、そのうち専任教員（2名）は14科目（7コマ）、非常勤教員（5名）が26科目（13コマ）担当している。非常勤教員依存率は65.0%である。非常勤の先生方との連携を十分行わなければならない。このような英語教育を目指すためには、本学部の専門領域に対する理解を非常勤教員の先生方に持って頂くよう、充分な配慮が必要である。

4.1 人間関係学部の英語教育について

既述の「ちから教授の授業十適」とさらに次のような「人間関係学部の英語教育について」を英語担当非常勤教員の先生方に配布して、周知、了解をお願いしている。

1. 大学教養英語をとりまく英語教育学の二つの考え方

1.1 教養部独自型

教養英語は学部から独立しており、全学部共通の英語教育を目指す。つまり、各学部の意向に従わない。

1.2 学部融合型

各学部jに適合した英語教育を指向する。たとえば、医学部用の教養英語、経済学部用の教養英語など。

1.3 人間関係学部の場合

本学部は創部以来、きめ細かい学部融合型の英語教育を実践してきた。つまり人間関係学部学生用の英語教育を目指してきたのである。次にその理由をあげる。

2. 学部融合型を採用する理由

2.1 教養部独自型は国立の大規模校などで行われているが、必ずしも学生の要望に応じているとは思えない。きめ細かい学部融合型を実行したくても、組織的に不可能である。

2.2 本学部は組織的にも、地理的にも、学部融合型の教育を実践するのに、理想的な環境を有している。きめ細かくて、小回りのきく、学生にとっては魅力的な英語学習が可能である。

2.3 人間関係学部の学生は英語を学ぶために入学したのではない。英語関係学科（英文科、英語英文学科、英米語学科など）の学生と比較すれば、英語を学ぶ動機は弱いと思われる。人間関係学に興味を持っている学生に適合した英語（内容、教授法）はこういった学生に有効である。

2.4 英語は言語である以上4技能の存在を無視するわけにはいかない。4技能の習得はどんな学部生にも通用する、普遍的なものと考えerことは間違いではないが、人間関係学部の学生だけに適合するような方法の方がより効果的である。

2.5 いくら英語に関心が低い学生にとっても、それは、単に読む・書く・聞く・話す能力に留まらず、言語の学習を通して、人間に関する深い洞察を得ることや、学ぶ学生の人間性の涵養を意味するものである。したがって、全学部共通の画一的な英語教育は、たとえ8単位といえども、改悪につながるものと言えよう。

3. 人間関係学部英語教育の目標

- 3.1 人間関係学に関連した4技能のレベルアップ
- 3.2 中学高校の英語教育の反省（偏差値教育の弊害）
- 3.3 新鮮な興味が持てる英語教育（新しい観点による英語教育）
- 3.4 各種英語資格試験受験への動機付け
- 3.5 英米文化、思想に対する正しい認識（脱英米憧れ、脱英米劣等感）
- 3.6 人間関係学の諸分野への橋渡し
- 3.7 生涯教育の出発点（機会があれば英語をやってみたい）

4. 英語科目教授内容配置例

4技能(Reading, Writing, Listening, Speaking) レベルアップのための基礎的な文法指導、語彙指導、発音指導、作文指導、講読指導を8単位の中に有機的に配備する。さらに各種英語資格試験、短期、長期留学についてのガイダンスを時に応じて行う。どの英語科目においても、上記人間関係学部英語教育の目標にあげたすべての項目に留意することが大前提であるが、それぞれの科目において、特に留意すべき点を挙げることにする。

4.1 英語1・2（1年生）

主にReadingの習得を目指す。文法指導、語彙指導、講読指導を適切に行う。しかし他の3技能も適時総合的に指導する。特に中学高校の英語教育の反省（偏差値教育の反省）、英米文化、思想に対する正しい認識(脱英米憧れ、脱英米劣等感)、新鮮な興味が持てる英語教育(新しい観点の英語)に留意する。

4.2 英語3・4（1年生）

主にListeningの習得を目指す。発音指導、語彙指導を適切に行う。しかし他の3技能も適時総合的に指導する。特に中学高校の英語教育の反省（偏差値教育の反省）、英米文化、思想に対する正しい認識（脱英米憧れ、脱英米劣等感）、新鮮な興味が持てる英語教育（新しい観点の英語）に留意する。

4.3 英語 5・6（2年生）

主に Writing の習得を目指す。文法指導，語彙指導，作文指導を適切に行う。しかし他の3技能も適時総合的に指導する。特に人間関係学の諸分野への橋渡しを指向し，生涯教育の出発点（機会があれば英語をやってみたい），英米文化，思想に対する正しい認識（脱英米憧れ，脱英米劣等感）に留意する。

4.4 英語 7・8（2年生）

主に Speaking の習得を目指す。発音指導，会話指導，語彙指導，作文指導を適切に行う。しかし他の3技能も適時総合的に指導する。特に人間関係学の諸分野への橋渡しを指向し，生涯教育の出発点（機会があれば英語をやってみたい），英米文化，思想に対する正しい認識（脱英米憧れ，脱英米劣等感）に留意する。

4.5 留意点

英語 1・2，英語 3・4，英語 5・6，英語 7・8 はそれぞれ同一の教員が担当し，同一の教科書を用いている。つまり，1名の教員が1年間同一学生を指導しているの。それぞれの教員の関心分野，得意分野に応じて，4技能のどれかを目指した授業を行っている。現在の教員体制（非常勤教員を含む）は，それぞれの技能がほぼ平均的になっており，どれかの技能に偏っているとは言えない。しかし，厳密に平均的にするには今後の課題である。

4.6 学年指定

英語 1・2・3・4 が1年生，英語 5・6・7・8 が2年生という学年指定が存在するが，英語は既習外国語であるので，どの技能を先に学習するかは，大きな問題とはならない。2年間で，すべての技能に則した英語を履修することをまず第一に考慮する必要があると思われる。

5. 自己評価記録表

初回授業時に次のような自己評価記録表を配布し，毎回授業時に持参し，授業中あるいは，終了時に記入するよう，周知徹底している。実際の用紙に関して，それぞれの記入欄はもう少し広く取ってある。自己評価欄については，あくまで正直に自己評価させ，学生にはなるべく毎回優になるように努力することを伝えている。授業十適の8.適切な評価基準実施と授業インフォームドコンセントのため，1セメスターで3回ほど，全員の出席状況を発表しており，出席記録の誤りがあれば申し出るように指導しているが，その際の証拠として，学生が記入した自己評価記録表をチェックすることもできる。

平成（ ）年度（ ）期 自己評価記録表

担当 加藤主税

科目名（ ），（ ）曜日（ ）限開講科目

（ ）学科，（ ）年，学籍番号（ ），氏名（ ）

1. この用紙は毎回授業時に持参し，授業中あるいは終了時に記入すること。
2. 7回終了時と14回終了時に提出すること。14回終了時は返還しないので，コピーを提出。
3. 「習得事項」はキーワード（キーセンテンス）。「自己評価」は1.理解度，2.努力度別に優，良，可，不可。

私のケースメソッド記録など

	日付	習得事項	自己評価
1		授業マニフェスト, 授業インフォームドコンセント	1 2
2			1 2
3			1 2
4			1 2
5			1 2
6			1 2
7			1 2
感想 反省			1 2
8			1 2
9			1 2
10			1 2
11			1 2
12			1 2
13			1 2
14			1 2
15		授業マニフェストの成果反省, 授業インフォームドコンセントの成果反省	1 2

感想反省			1
			2

6. 授業マニフェストと授業インフォームドコンセント

「授業マニフェスト」はいわゆる政治用語の「マニフェスト」から、「授業インフォームドコンセント」は医療用語の「インフォームトコンセント」から、教育分野に導入した私の造語である。教育用語として定着することを希望し種々の機会に使用している。授業マニフェストとは、1.この授業を受講したらどうなるのか、2.将来的にどう役に立つのか、3.どのように成長するのか、4.この科目受講の意義、5.教員はどのような準備して授業に臨んでいるのか、などを含む。

授業インフォームドコンセントとは、1.納得のいく評価、2.受講生の義務、3.授業の雰囲気作りへの協力（私語厳禁）、4.この科目の単位取得の意義、などを含む。

7. 出欠チェック

授業における学生の出欠チェックは厳密に行わなければならない。出欠チェックを行わないことは、厳正な成績評価は不可能であるし、学則違反であるとも考えられる。学則には「学生は総授業回数の2/3以上出席しなければならない」とある。それ以下の出席しかない学生に単位認定をすることはできない。出席を評価に含めなくて、純粋に期末試験だけで評価することは危険である。不公平感のない厳密な試験作製が困難であるから。

毎回出席している学生と、ほとんど出席していない学生を、筆記試験だけで判別できない。まじめでも筆記試験ができない学生が不憫である。ふまじめでも、ノートを人に借りて筆記試験ができる学生は多い。ただし例外として、結果が良ければすべて良しの資格関連の授業においては、出席はそれほど重要視しなくてもいいかもしれない。

7.1 ちから教授の高速出欠チェック法

外国語科目や、ケースメソッドなどの演習科目は比較的受講生が多くないので、出欠チェックは困難ではない。しかしすべての学年に開放されている講義科目の中には200名を越えるものもあるので、厳正な出席チェックは困難を極める。

出席カードの場合は代筆あるいは不正を阻止するため、出席人数分だけ、学生個人個人の顔をチェックしながら、配布しなければならない。しかも出席カードは日付と教員印を付けたものを用意することが必要である。さらに毎回授業後の学生出席名簿への転記はたいへん煩わしいことである。

口頭での出席チェックの場合も、厳正にしようとするれば、容易いことではない。代返の予防として、学生個人個人の顔をチェックしながらしなければならない。指定席にすれば、可能であるが、その出欠チェックには相当な時間を要する。毎回のことなので、授業時間を削られることは耐えられない。

そこで私の高速出欠チェック法を紹介しよう。学生の顔をチェックすることに時間がかかるので、顔チェックはしない。名簿を読み上げ、学生の返事だけで、出席確認をする。その呼び

上げる速度を上げるのである。そのためには、次のようなことをしている。

- 1) 授業初回時に返事の練習をする。「ハイ」の発音、長さを指導する。声は最大限出すことを周知徹底する。
 - 2) 私は名簿読み上げ速度を上げるため、練習している。基本的には姓にサン付けであるが、同性の場合は名まで読み上げる。算盤塾の先生の「読み上げ」をまねたものである。
 - 3) 学生は学籍番号、学科、学年順によられるので、自分の番が近づくと大きな声で返事するように準備する。その際たとえば、「3年人間関係学科」ということを告げている。
 - 4) 始めの頃は、とっさに大きな声で返事ができない学生が、少なからず存在したが、慣れてくると、ほとんどなくなった。
 - 5) 授業の半ばに授業を中断し、休憩時間を設ける。その時間に出席確認を受け付け、声が出なかった学生、小さな声だったので出席になっているか心配している学生に対応する。
 - 6) 休憩中は私語をしても、教室を歩き回ってもよいが、教室外に出ることは、禁止している。というのは、出席確認時のどさくさに脱出する学生が出たからである。トイレは授業中でも許可する。ただし、携帯電話、カバンなどを持って出ないようにしている。
 - 7) 指定席にしなくても、代返は完全になくなった。(ある時限の名簿の出席者数と教室の人数が一致したのである) 自分の返事で精一杯なので、他人の返事をする余裕がないのである。
 - 8) 声がいつも小さい学生(出席確認によく来る学生)については、学生名簿にチェックを付ける。
 - 9) 200名程の授業での出欠チェックは8分であった。もう少し短縮できる可能性があるが、最近では200名を越える授業があまりなく、練習できないことが悩みごとになっている。
- 「ちから教授の高速出欠チェック法」はあるラジオ番組で披露したことがあるが、視聴者の方からよい反応を得ることができた。

8. ケースメソッドについて

- ### 8.1 私が担当するケースメソッドの概要は、シラバスがもっとも分かり易いので、以下平成21(2009)年度分を紹介する。

ケースメソッドⅠ(前期)、Ⅱ(後期) 3, 4 学年 1 単位 火 2

授業内容:

ことば関係のデータを皆で協力して、1冊の本を作成する過程を通し、作業手順、作業分担、さらにそのための議論の仕方を、実践的に学びます。世間に受け入れられる本の作成を目指します。このケースメソッドで『驚異の若者コトバ事典』、『女子大生が選んだ あだな大事典』、『女子大生が集めた おもしろ死語事典』、『ちから教授が集めた 女子大生の内緒話』、『ミョーな表現集』、『かわゆい ペット名事典』、『女子大生がつけたい 赤ちゃんの名前集』、『女子大生が目撃した イヤな行動集』、『女子大生のホンネ - 不平不満集』、『女子大生のほのぼの話』、『女子大生が解説 ケイタイ、ネット新人間関係』、『最新若者コトバ情報』、『女子大生の好きな死語事典』、『女子大生がマジに付けたい「赤ちゃん名」事典』、『あだな事典』、『女子大生のツッ

コミ話集』『女子大生のココロに残った言葉』を作り、いづれも大好評で、テレビ、ラジオなど、多くのマスコミで取り上げられ、ほとんどのものが正式出版されました。

特に、女子大生が集めた おもしろ死語事典』は『世紀末死語事典』として、出版され、『スマ+スマ』という番組の「マー坊」を生み出しました。今年度は『若者風四文字熟語会話集(仮題)』を作ります。すでに多くのデータが集まっています。このデータを調理し、いかにおいしい料理を作り上げるかが、アナタの腕にかかっています。イラストの好きな人、コトバと人間関係に興味のある人、ニギヤカで議論好きな人、さらにテレビなどのマスコミに出たい人大歓迎。コトバに関する一冊の本を皆でワイワイ、ガヤガヤやりながら、作り上げてゆくのは楽しいとは思いませんか。ただし、楽しいことばかりではありません。このケースメソッドは大学の授業ではなく、ある出版社の編集局だと思って下さい。社運をかけた大プロジェクトに参加するのですから。本の作成ばかりでなく、マスコミに対する宣伝、あるいは正式出版のための出版社回り、さらには販売方法あるいは、親睦会の開催までを諸君に委ねます。

ケースメソッドⅠは本の作成のための、全体構成、人員配置、編集などを行い、この段階だけでも、十分このケースの目標は達成されます。ケースメソッドⅡは本の作成のための最終段階である、原稿まとめ、印刷会社との折衝、マスコミ配付、正式出版準備などを行います。前後期どちらのケース受講だけでも十分上記の目標が達成されます。半年間参加したアナタは、コトバに対する繊細な感覚を身に付けると同時に、議論の仕方、共同作業の進め方の難しさを実体験し、人間関係の達人になった、自分を発見すること、うけあい。

授業計画：

1. 授業ガイダンス(授業マニフェスト、授業インフォームドコンセント)
2. データ読み合わせ
3. 作業手段討議
4. 作業分担討議
5. 討議、作業、整理
6. 討議、作業、整理
7. 討議、作業、整理
8. 討議、作業、整理
9. 討議、作業、整理
10. 討議、作業、整理
11. 討議、作業、整理
12. 討議、作業、整理
13. 討議、作業、整理
14. 討議、作業、整理
15. まとめ、反省(授業マニフェストの成果反省、授業インフォームドコンセントの成果反省)

履修上の注意：

作業の進行状況を常に把握し、授業開始と同時に自主的に作業を始めることができるよう、事前に十分準備すること。

授業方法：

出席を重視します。でも、ただ出席するだけではダメです。積極的、自主的にこの大プロジェクトに参加して下さい。騒がしいくらいに議論しあい、また自分の担当分野を責任を持って、遂行して下さい。

評価方法：

もちろん出席を重視します。積極性、自主性、アイデアの善し悪し、発言の質と量など、このプロジェクトへの貢献度などを評価します。

教科書、参考書：

教科書は使いません。参考書は、『驚異の若者ことば事典』（海越出版社、1000円）、『女子大生が集めた ニックネーム、あだな大事典』（中日出版社。1000円）、『ちから教授が集めた 女子大生の内緒話』（近代文藝社、1500円）、『世紀末死語事典』（中央公論新社、900円）、『日本語七変化』（中央公論新社、1300円）、『フシギことば学』（翔雲社、1500円）、『日本語発掘 - 和語の世界』（晃学出版、2000円）、『ちから教授のコトバ学』（ミネルヴァー書房、1500円）、『（最新版）女子大生が大好きな 死語事典』中日文化会、500円、『最新若者言葉事典』中日文化会、500円、『愛情たっぷり 赤ちゃんの名前事典』中日文化会、500円（すべて加藤主税著です）などで貸し出します。

8.2 入学年度順各期生

本学部の各期生を入学年度順に以下列挙する。これらの年度の3年後が卒業年度である。私のケースメソッドの対象期生をはっきりさせるためである。

- 第1期生（昭和62（1987）年度入学生）
- 第2期生（昭和63（1988）年度入学生）
- 第3期生（昭和64，平成1（1989）年度入学生）
- 第4期生（平成2（1990）年度入学生）
- 第5期生（平成3（1991）年度入学生）
- 第6期生（平成4（1992）年度入学生）
- 第7期生（平成5（1993）年度入学生）
- 第8期生（平成6（1994）年度入学生）
- 第9期生（平成7（1995）年度入学生）
- 第10期生（平成8（1996）年度入学生）
- 第11期生（平成9（1997）年度入学生）
- 第12期生（平成10（1998）年度入学生）
- 第13期生（平成11（1999）年度入学生）
- 第14期生（平成12（2000）年度入学生）
- 第15期生（平成13（2001）年度入学生）
- 第17期生（平成14（2002）年度入学生）
- 第18期生（平成15（2003）年度入学生）
- 第19期生（平成16（2004）年度入学生）
- 第20期生（平成17（2005）年度入学生）
- 第21期生（平成18（2006）年度入学生）
- 第22期生（平成19（2007）年度入学生）
- 第23期生（平成20（2008）年度入学生）
- 第24期生（平成21（2009）年度入学生）

8.3 加藤ケースメソッド記録

各年度のケースメソッドの記録を、以下簡潔に解説を付けて示す。

1. (平成3(1991)年度)(第3期生(昭和64, 平成1(1989)年度入学生), 第4期生(平成2(1990)年度入学生) 対象) —現代日本語の諸問題

この年度は初めてケースメソッドを担当したので、現代日本語の諸問題について、プリントなどを用意して、質疑応答中心の授業を行った。

2. (平成4(1992)年度)(第4期生(平成2(1990)年度入学生), 第5期生(平成3(1991)年度入学生) 対象) 留学生—日本語

当時は留学生対象の日本語科目が設定されていなかったため、外国人向けの日本語教本を使用し、日本語指導を行った。

3. (平成5(1993)年度)(第5期生(平成3(1991)年度入学生), 第6期生(平成4(1992)年度入学生) 対象) —若者コトバ

3年程前から。若者言葉を収集していたので、そのデータを元にして、学生とともに本の作成を目指した。下記の私家版をマスコミに送ったところ、予想外の反響をえた。当時たまたま若者言葉のブームが来ていた。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌各社から、取材が殺到した。同じ年にほぼ同じ内容で正式出版した。次年度に備えてあだ名のデータの収集を始めた。

『名古屋発 女子大生が選んだ 驚異の若者コトバ事典』(私家版 平成5(1993)年), 『驚異の若者コトバ事典』(海越出版社 平成5(1993)年)

4. (平成6(1994)年度)(第6期生(平成4(1992)年度入学生), 第7期生(平成5(1993)年度入学生) 対象) —あだな

今回もマスコミの目に留まり、マスコミに登場した。ただし、若者言葉ほどの反響ではなかった。2年後に内容を少し変えて、正式出版した。その際にはケースはすでに解散しているので、学生アルバイトを使った。

『女子大生が選んだ あだな大事典』(私家版 平成6(1994)年), 『あだな、ニックネーム大事典』(中日出版社 平成8(1996)年)

5. (平成7(1995)年度)(第7期生(平成5(1993)年度入学生), 第8期生(平成6(1994)年度入学生) 対象) —死語

若者言葉より反響は大きく、日本の死語ブームの先駆になった。「死語」とはラテン語、ギリシャ語などの「死んだ言語」という定義が普通だったのに、この本の影響で、現代語の古くさい語という意味が定着した。「死語」をこのような意味で使ったのは私が初めてであると自負している。1年後正式出版したが、内容は小冊子版とは全く異なる。私の収集データを中央公論社の編集者の助力を得て、新たに書いたものである。

『女子大生が集めた おもしろ死語事典』(私家版 平成8(1996)年), 『世紀末死語事典』(中央公論社 平成9(1997)年)

6. (平成8(1996)年度)(第8期生(平成6(1994)年度入学生), 第9期生(平成7(1995)年度入学生) 対象) 前期—ミョーな表現, 後期—内緒話

前期作成の小冊子もマスコミには紹介されたが、反響はそれほど大きくなかった。後期分の正式出版本のデータは10年来集めてきたものである。

前期『女子大生が解説 ミョーな表現集』(私家版 平成9(1997)年), 後期『ちから教授が集めた 女子大生の 内緒話』(近代文藝社 平成9(1997)年)

7. (平成9(1997)年度)(第9期生(平成7(1995)年度入学生), 第10期生(平成8(1996)年度入学生)対象) —ペット名

マスコミには紹介されたが、反響はそれほど大きくなかった。正式出版には至らなかった。
『女子大生が集めた 最新ペット名事典』(私家版 平成10(1998)年)

8. (平成10(1998)年度)(第10期生(平成8(1996)年度入学生), 第11期生(平成9(1997)年度入学生)対象) —赤ちゃん名

マスコミには紹介されたが、反響はそれほど大きくなかった。
『女子大生がつけたい 赤ちゃんの名前大集合』(私家版 平成11(1999)年)

9. (平成11(1999)年度)(第11期生(平成9(1997)年度入学生), 第12期生(平成10(1998)年度入学生)対象) —イヤな行動

マスコミには紹介された。反響はある程度あった。正式出版の依頼が数社からあった。正式出版本は出版社の編集者と協力して、大幅に編加筆、修正した。

『女子大生が目撃 イヤな行動集』(私家版 平成12(2000)年), 『嫌われる人々 - 女子大生が見た 嫌われしぐさ』(ライフ企画 平成12(2000)年)

10. (平成12(2000)年度)(第12期生(平成10(1998)年度入学生), 第13期生(平成11(1999)年度入学生)対象) —不平不満話

マスコミには紹介された。反響はある程度あった。6年後正式出版した。その際は出版社の編集員の協力を得て、大幅に加筆修正した。

『女子大生のホンネ わたし達のゼイタクな不平不満』(私家版 平成13(2001)年), 『女子大生のホンネ』(中日文化会 平成19(2007)年)

11. (平成13(2001)年度)(第13期生(平成11(1999)年度入学生), 第14期生(平成12(2000)年度入学生)対象) —ほのぼの話

マスコミには数回紹介されたが、反響はそれほど大きくなかった。
『女子大生のほのぼの話』(私家版 平成14(2002)年)

12. (平成14(2002)年度)(第14期生(平成12(2000)年度入学生), 第15期生(平成13(2001)年度入学生)対象) —ケータイ、ネット関係

マスコミには紹介されたが、反響はそれほど大きくなかった。ただし、本書の解説で私の造語「ケーチュー(携帯電話依存症)」を初めて使用し、色々なマスコミで取り上げられ、新語、風俗語として定着している。現在でも取り上げられている。

『女子大生が解説 ケータイネットで新人間関係』(私家版 平成15(2003)年)

13. (平成15 (2003) 年度) (第15期生 (平成13 (2001) 年度入学生), 第16期生 (平成14 (2002) 年度入学生) 対象) —若者言葉

12年ぶりに再度若者言葉を取り上げ、小冊子ができる前から、反響が大きかった。授業中、4社のマスコミが同時に取材に来たことがあった。日本では若者言葉のブームはずっと前からなくなっていた。各地の若者言葉研究会は消滅していたのである。再ブームを引き起こした。正式出版本は出版社の編集者自身のコメントを大幅に付け加えた。

『若者言葉事典』(私家版 平成16(2004)年), 『最新若者言葉事典』(中日文化会 平成17(2005)年)

14. (平成16 (2004) 年度) (第16期生 (平成14 (2002) 年度入学生), 第17期生 (平成15 (2003) 年度入学生) 対象) —死語

マスコミの反応は大きかった。正式出版本は出版社の編集者自身のコメントを大幅に付け加えた。

『女子大生の好きな死語事典』(私家版 平成17(2005)年), 『(最新版) 女子大生が大好きな死語事典』(中日文化会 平成17 (2005) 年)

15. (平成17 (2005) 年度) (第17期生 (平成15 (2003) 年度入学生), 第18期生 (平成16 (2004) 年度入学生) 対象) 前期—うわさ話, 後期—赤ちゃん名

後期の「赤ちゃん名」はマスコミに大きく取り上げられた。とくにネットでの反響が大きかった。『愛情たっぷり 赤ちゃんの名前事典』出版社の編集者のコメントを付け加筆修正した。前期『ちから教授もびっくり仰天! ホントかなウソかな 女子大生が集めた天地がひっくり返りそうなのはなし』(中日文化会 平成17 (2005) 年), 後期『女子大生がマジに付けたい「赤ちゃん名」事典』(私家版 平成18 (2006) 年), 『愛情たっぷり 赤ちゃんの名前事典』(中日文化会 平成18 (2006) 年)

16. (平成18 (2006) 年度) (第18期生 (平成16 (2004) 年度入学生), 第19期生 (平成17 (2005) 年度入学生) 対象) —あだな, ニックネーム

マスコミの反応は大きかった。ただ正式出版には至っていない。

『女子大生が集めたあだな事典』(私家版 平成19 (2007) 年)

17. (平成19 (2007) 年度) (第19期生 (平成17 (2005) 年度入学生), 第20期生 (平成18 (2006) 年度入学生) 対象) —ツッコミ話

マスコミの取材はあったが、それほどの反響はなかった。

『女子大生のツッコミ話』(私家版 平成20 (2008) 年)

18. (平成20 (2008) 年度) (第20期生 (平成18 (2006) 年度入学生), 第21期生 (平成19 (2007) 年度入学生) 対象) —心に残った言葉

たいへん面白い本に仕上がった。まだ完成していないが、相当よい評価を期待している。

『女子大生の心に残った言葉』(私家版 平成21 (2009) 年)

19. (平成21 (2009) 年度) (第21期生 (平成19 (2007) 年度入学生), 第22期生 (平成20 (2008) 年度入学生) 対象) —

年度入学生) 対象) 一若者風四文字熟語会話

2年前からデータを収集している。四文字熟語のブームを期待している。『アエラ2009年1月12日号』で2009年の予言として私は『和語、漢語、武士語の復活』をコメントした。

9. おわりに

本ケースメソッドで作成した本でマスコミに紹介されなかった本は1冊もない。大学の一授業で作成した冊子がマスコミに取り上げられることは、めったにないことである。毎年紹介ニュースがマスコミに出ることは、奇跡に近いものと考えられる。私自身ラッキーだと思っている。小冊子を作成し始めてから、17年間になるが、これに関係するマスコミ露出は厳密には数えていないが、200回を越える。

私のケースメソッドは学生各自の判断に任せ、あまり介入しないようにしている。私は、その年度ごとの話題について、理論、歴史的情報、言語学的解釈などを解説し、小冊子作成の基本や、各作業のおおまかな日程を学生に知らせ、各自の責任分担の重要性を、周知徹底し、あとは各学生の積極的な活動を期待する。

議論、討議のし方、まとめ方などを学生が体得していくことを目指してきた。授業後も自ら進んで作業を行うような学生も出現してきた。欠席したら他のものが困るという意識も芽生え、出席率はすこぶるよい。私語を注意することはほとんどない。学生の感想によれば、完成後の冊子を手に入れば、至上の喜びを味わうことができ、マスコミで取り上げられることの喜びを噛み締めることができ、さらに就職採用試験面接で、面接官から「その本知っているよ」と言われたそう。